

創立145周年

学校だより



は  
南 風 の 子

中種子町立

南界小学校

平成30年6月20日(水)

時を守ることは、命を大事にすること

校長 吉留 巧

間もなく6月も終わりますが、この6月はいろいろな記念日があります。「気象記念日」「横浜開港記念日」「時の記念日」「貿易記念日」……。数ある記念日の中でも「時の記念日」は最初に設定されたものです。天智天皇の時代に漏刻(水時計)が設置され宮廷に時を告げるようになった日を太陽暦に直すと西暦671年6月10日になるそうです。そこで、大正9年に6月10日を『時の記念日』としました。大正時代、衣食住を始め社会生活の近代化が進められ、特に「時間厳守」「時間の節約・有効活用」による効率化が近代生活の基本として位置づけられました。そこでこのようなポスターも作られました。



南界校区に昔、時を知らせていた大梵鐘も昭和3年の6月10日の「時の記念日」に合わせてツキ初めをしたと「南界郷土史」に書かれています。

「直径二尺二寸、重量85貫の大梵鐘が本日時の記念日に校庭に釣られ、陰として響く大音響は壮大な感にうたれ、南界校区内の各地に鳴り響き、時に関する観念の徹底的、永久的施設として一同歓喜と将来区民生活改善への希望を期待することにした。」

ところで、この『時間』について、元聖路加国際病院長で、105歳で亡くなられた日野原重明先生は、『命の授業』の中で次のようなことを言っておられます。命は見えないし、触れないし、感じられません。子どもたちに「『時間』は見える？」と聞くんです。昨日も今日も見えないけれど、寝たり、勉強したり、遊んだりするのは、君たちが持っている『時間』を使っているんだよ。『時間』を使っていることが、君が生きている証拠。『時間』の中に『命』があるんだよ。と子どもたちに伝えておられます。



また、小さいときは、自分の『時間』を自分のために使い、大きくなったら人のため、誰かの役に立てるように使ってほしい。また、明日や昨日という時間は存在しない。持っているのは『今』だけ。その『時間』をどう使うかを一所懸命考えることが『命』を大切にすることだと思う。と話しておられます。

お陰様で、南界小の26名の子どもたちは、元気に学校生活を送っています。1年生もすっかり学校に慣れ、他の学年も見違えるほど成長しています。毎日毎日の時間を大事にし、学校生活を楽しんでほしいと思います。

18日(月)午前8時ごろ大阪地方で地震が発生しました。小学4年生が亡くなるなど人身、建物・交通インフラへの被害がありました。本校では、6月15日(金)に抜き打ちで地震を想定し、避難訓練を行いました。子どもたちはこれまでの訓練を生かした避難ができました。しかし、登下校の時間や休日などいろいろな場面を想定した話を家庭でもしていただければと思います。